

# 巻 頭 言

## 工作機械特集によせて

工作機製造所長 岩上良行



当社は機械工具の国産化をめざして創立され、総合工具メーカーとして発展する中で、社内生産設備の自社製作と、自社工具を搭載する工作機械の製造を目的として工作機械部門に進出し、工具・工作機械との協業により加工技術において独自の技術を蓄積してまいりました。

21世紀に向けての更なる飛躍を遂げるため、コア技術である加工、機械要素、システム制御、材料の4つの技術シーズの深耕と超精密加工やCNC制御など新技術の確立を進めています。

工作機械は“機械を作る機械”あるいは“マザーマシン”として、あらゆる産業の基盤を形成し、今日の経済発展の一翼を担ってきました。しかし、生産財のため好不況の波を受けやすく、バブル経済を含む平成景気の中では、自動車・電気産業などの発展に支えられて、1兆4000億円を超える史上最大の受注を獲得しましたが、バブル崩壊後は大幅に需要が低迷するなど非常に大きな変動を経験した業界でもあります。

'96年に入って、工作機械の需要は、緩やかながら回復に向かっていますが、従来のような高度成長は望み得ない状況にあります。最近の傾向である「国際化」と「情報化」に対して、生産システムは多品種変種変量生産への対応が要求され、お客様のニーズの2極化が感じられるようになって来ました。一つには従来の技術課題の延長である高性能・高品質・高能率と融通性（フレキシビリティ）の追求であります。もう一つは製造業の海外進出に伴う国内の空洞化と国際化による低価格化であります。

しかしながら本当のウオントは、両方を兼ね備えた設備であるはずであり、矛盾する2つのニーズを満たすには、もの作りの原点に戻り、

- (1) お客様のニーズからウオントをプロのメーカとして提案営業の中で把握する
  - (2) そのウオントをシンプルで最適に具現化してお客様に喜んでいただけるようにする
- に集約できると考えます。

幸い、弊社にはこれらのニーズに対応するためのコア技術である工具をはじめとするトップレベルの加工技術と超精密加工技術、材料と熱処理技術、軸受、油圧などの要素技術、産業用ロボットなどのシステム制御技術、更に、CNC制御やパソコンCNCによるFAシステムのオープン化対応、パソコン内蔵型画像処理計測システムなどの電子・情報化対応の技術などがあり、現場から喜ばれる工作機械や生産システムを構成するために必要な要素技術の多くを保有しています。これらの技術シーズの拡充と融合を図るとともに、専用機の特長である高精度・高能率に汎用機が持つフレキシビリティを付加して標準機化することにより、ますます多様化するお客様ニーズと現場のウオントに役立てていきたいと考えています。

併せて、工作機械や生産システムのライフサイクル全般にわたる品質面での信頼に役立てていくために、設計から製造、納入、サービスの各プロセスのそれぞれにおける明確な目標を設定し、変化するニーズにシンプルに対応していきたいと考えております。